

# 第1部

## 人口ビジョン

# 第1章 人口の現状分析

## 第1節 人口動向分析

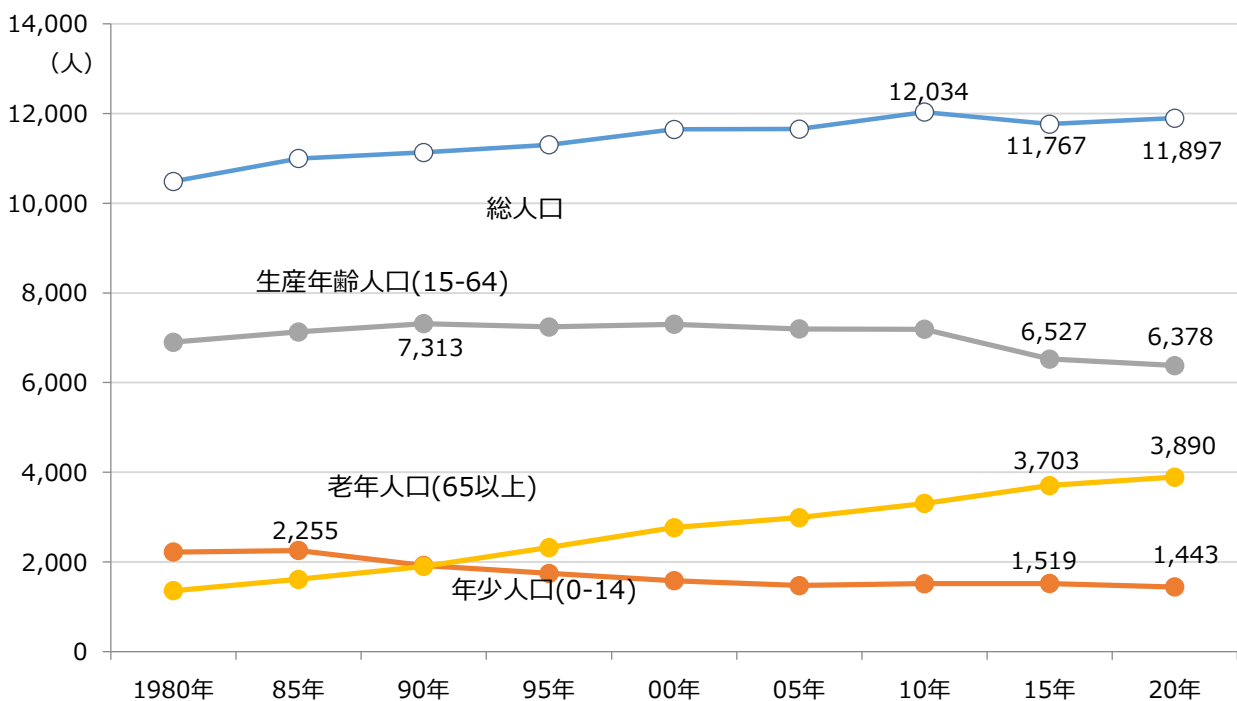
### (1) 総人口

本町の国勢調査人口は昭和45年（1970年）以降増加が続き平成22年（2010年）には12,034人となりました。平成27年（2015年）には11,767人と微減となったものの、令和2年（2020年）には11,897人と増加に転じています。

生産年齢人口は、平成2年（1990年）以降、減少が続いています。

年少人口については、平成17年（2005年）以降、微増傾向にありましたが令和2年（2020年）では再び減少しています。

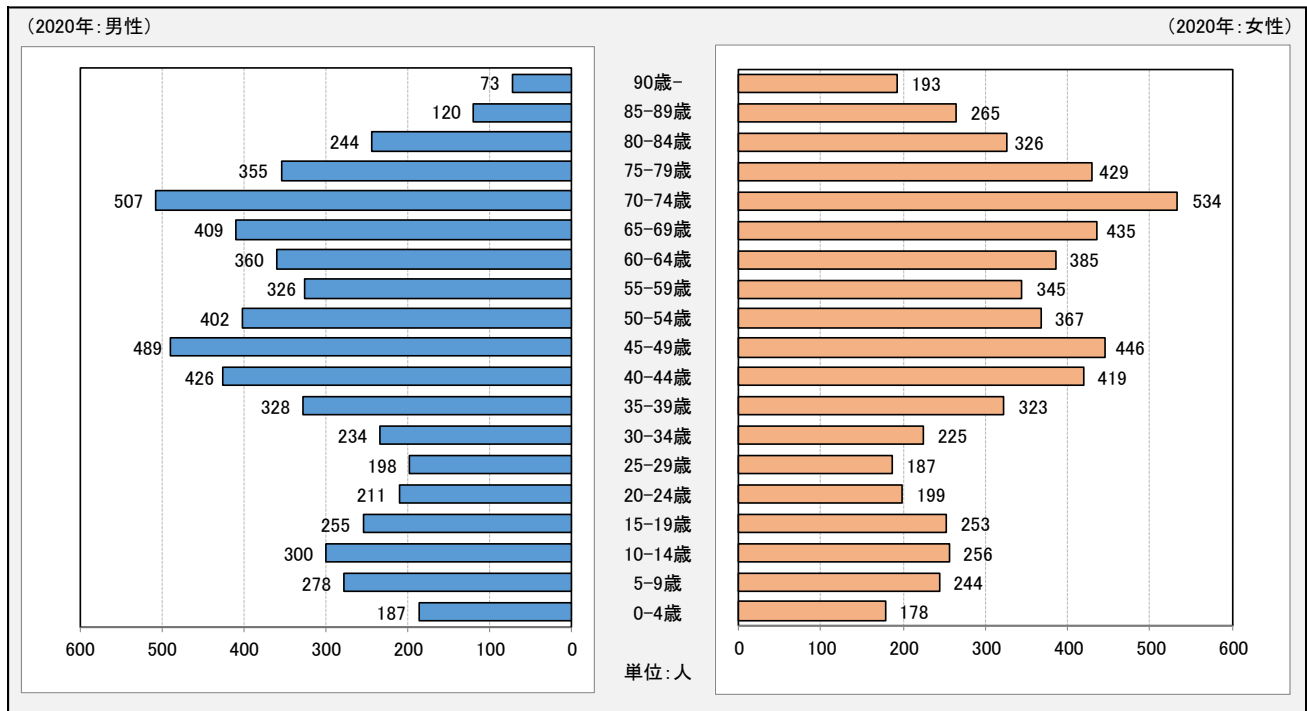
一方、老年人口（65歳以上人口）は一貫して増加しており、人口規模は維持されていますが、高齢化が進行しています。



出所：国勢調査(年齢不詳のため年齢3区分別の合計と総人口は一致しない)

## (2) 年齢別人口

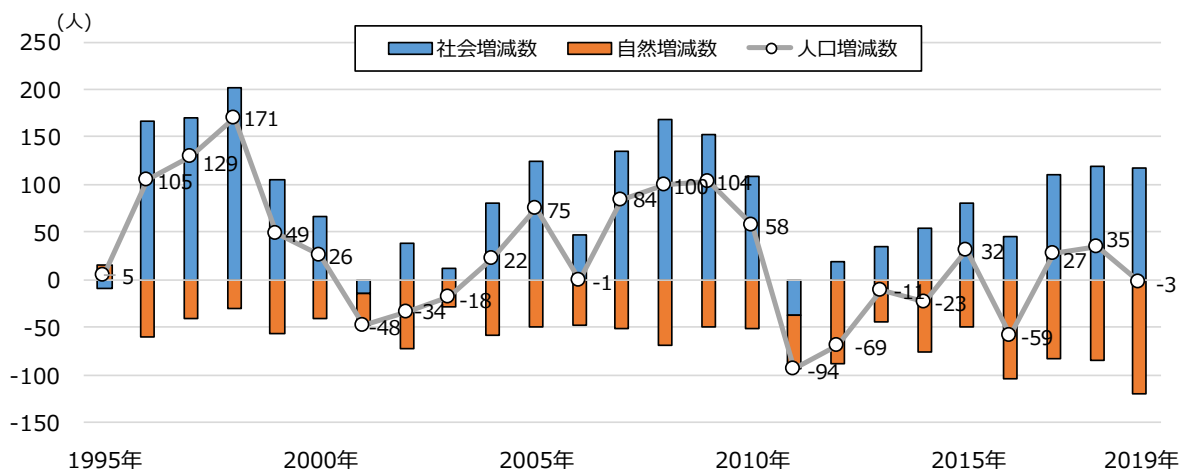
本町の年齢別人口は、団塊の世代とその子ども世代である団塊ジュニア世代の人口が多くなっています。



出所: 令和2年国勢調査(年齢不詳を除く)

## (3) 自然増減・社会増減

一貫して、死亡数が出生数を上回る自然減少の状態が続いているなかで、平成 24 年(2012 年)以降は転入が転出を上回る社会増加が拡大することで人口規模が維持されています。

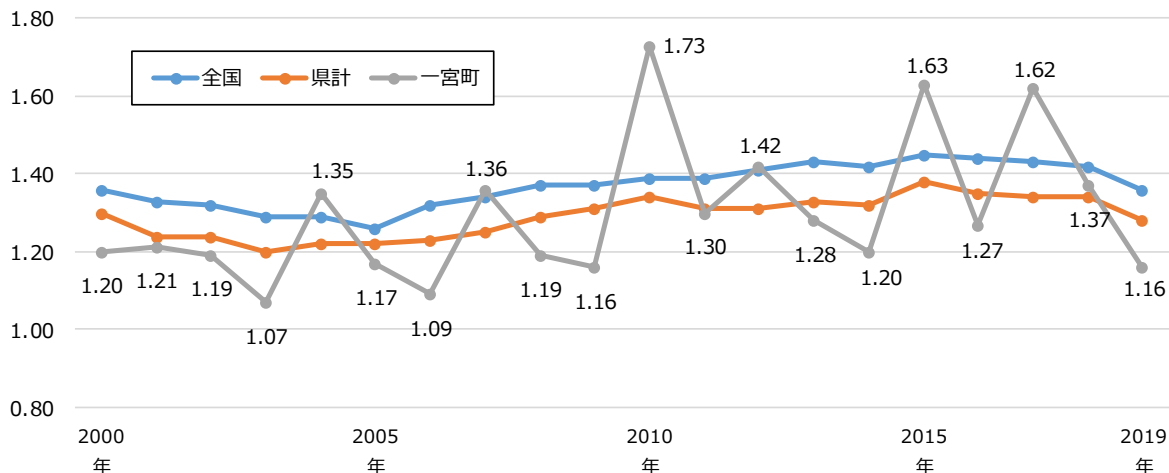


出所: REASAS (地域経済分析システム)【総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工】

【注記】2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

## (4) 合計特殊出生率

直近5年平均では1.41と、千葉県(1.34)を上回り、全国(1.42)と同水準となっています。



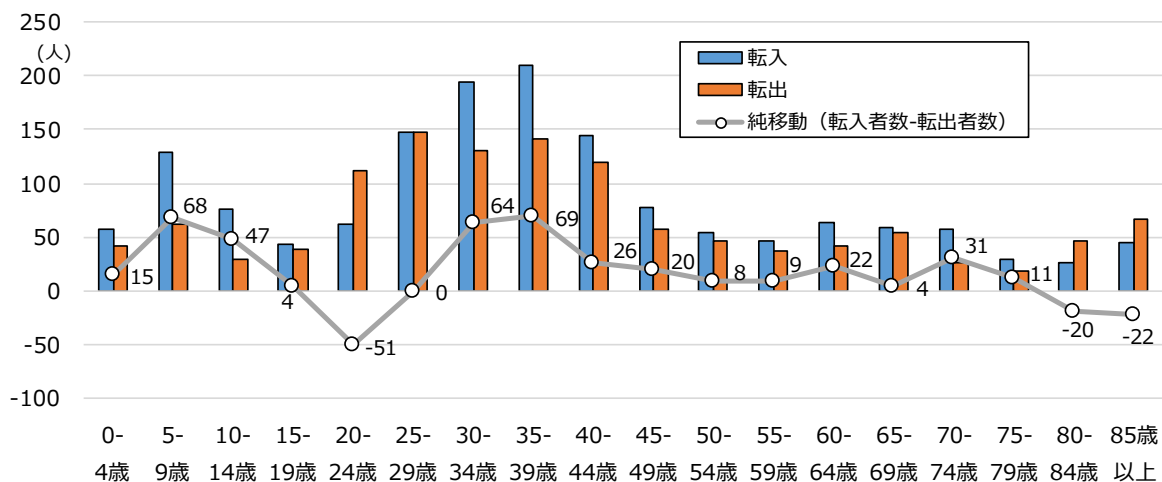
出所：千葉県「合計特殊出生率」

## (5) 年齢別社会移動

国勢調査における社会移動(平成22年から平成27年)をみると305人の転入超過となっています。性別では男性(146人増)、女性(159人増)とほぼ同数となっています。

年齢別では、35-39歳(69人増)、5-9歳(68人増)、30-34歳(64人増)の順となっており、子育て世代が転入の中心となっています。

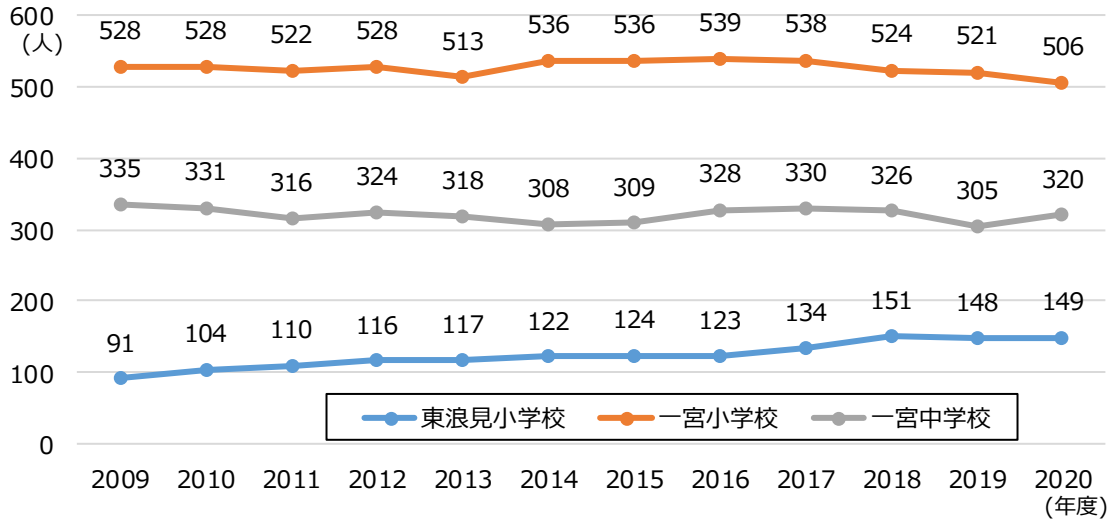
一方で就学・就職期である20-24歳(51人減少)および80歳以上の年齢層で転出超過となっています。



出所：平成27年国勢調査

## (6) 児童・生徒数

本町の生徒・児童数は、近年安定して推移していますが、平成29年度の1,002人をピークに微減となっており、令和2年度は975人となっています。



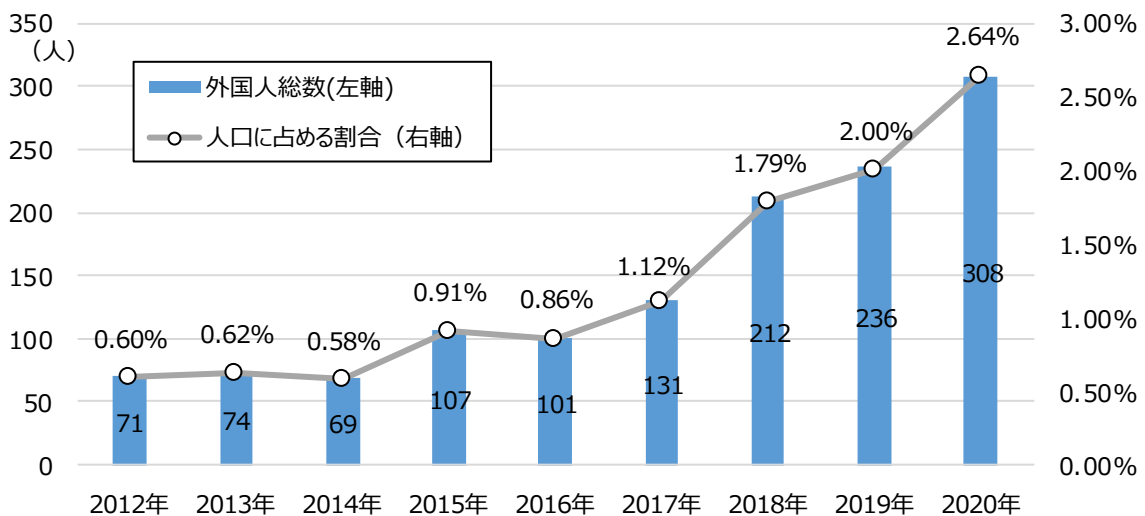
出所：千葉県「学校基本統計」

## (7) 外国人数

本町の外国人数は増加が続いており、令和2年は308人となっています。

国籍では、中国110人(35.7%)、ベトナム70人(22.7%)などアジアが中心(91.2%)となっており、平成30年以降は中国、ベトナムが顕著に増加しています。

人口に占める割合は2.64%となっており、千葉県(2.66%)と同水準ですが、全国平均(2.29%)は上回っています。



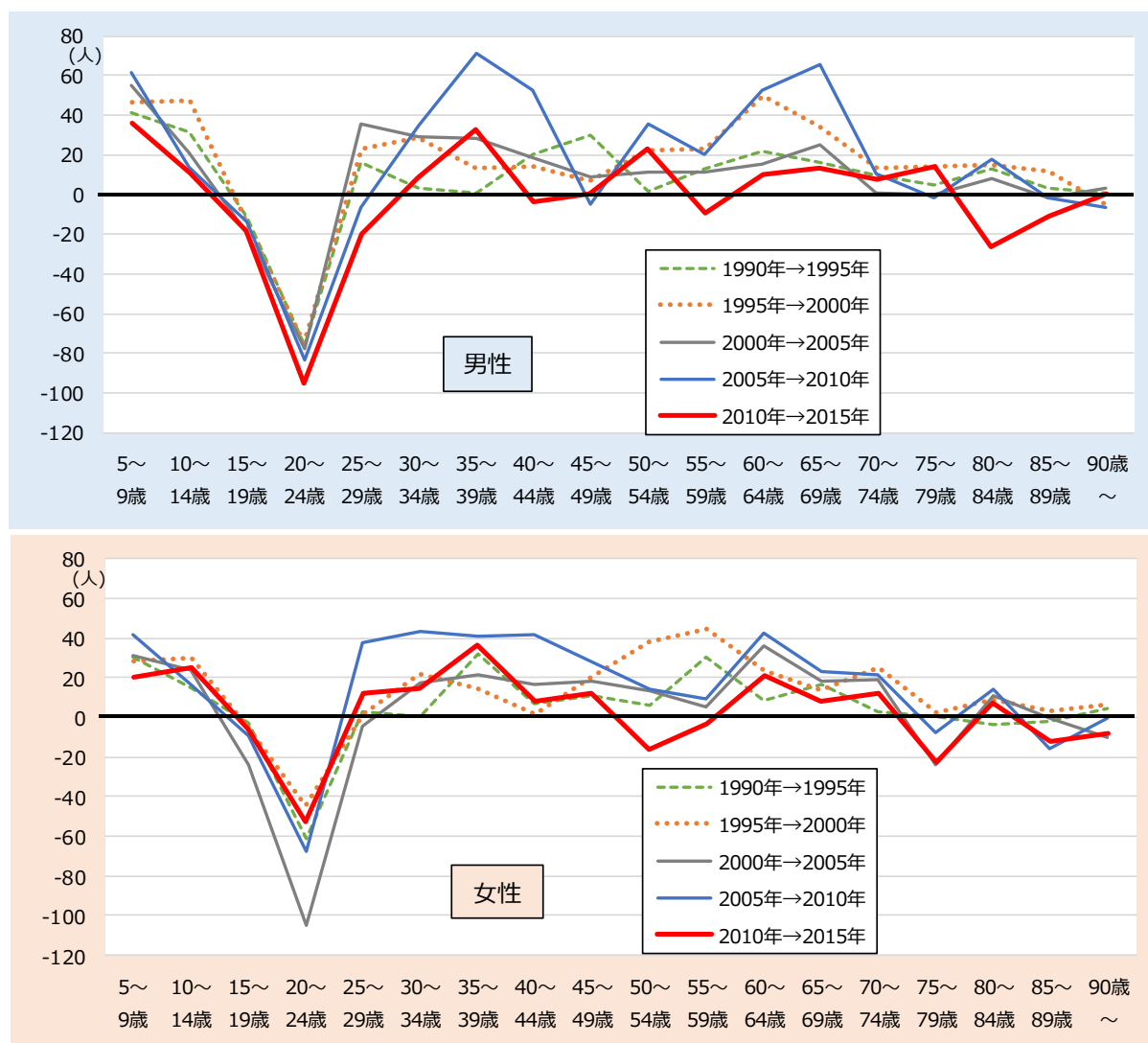
出所：千葉県国際課「住民基本台帳による外国人数(各年12月末現在)」

(注) 人口に占める割合に用いた総人口は千葉県統計課「毎月常住人口調査(各年10月1日現在)」

## (8) 年齢別社会移動の経年変化 (男女別)

年齢別の社会移動数の推移をみると、男女とも一貫して「20～24歳」における転出超過が顕著となっています。

平成 22→27 年で転入超過幅が大きい 30 歳から 49 歳の層をみると、平成 12→17 年、平成 17→22 年に比べ、直近の平成 22→27 年は転入超過数が減少しています。



出所：国勢調査

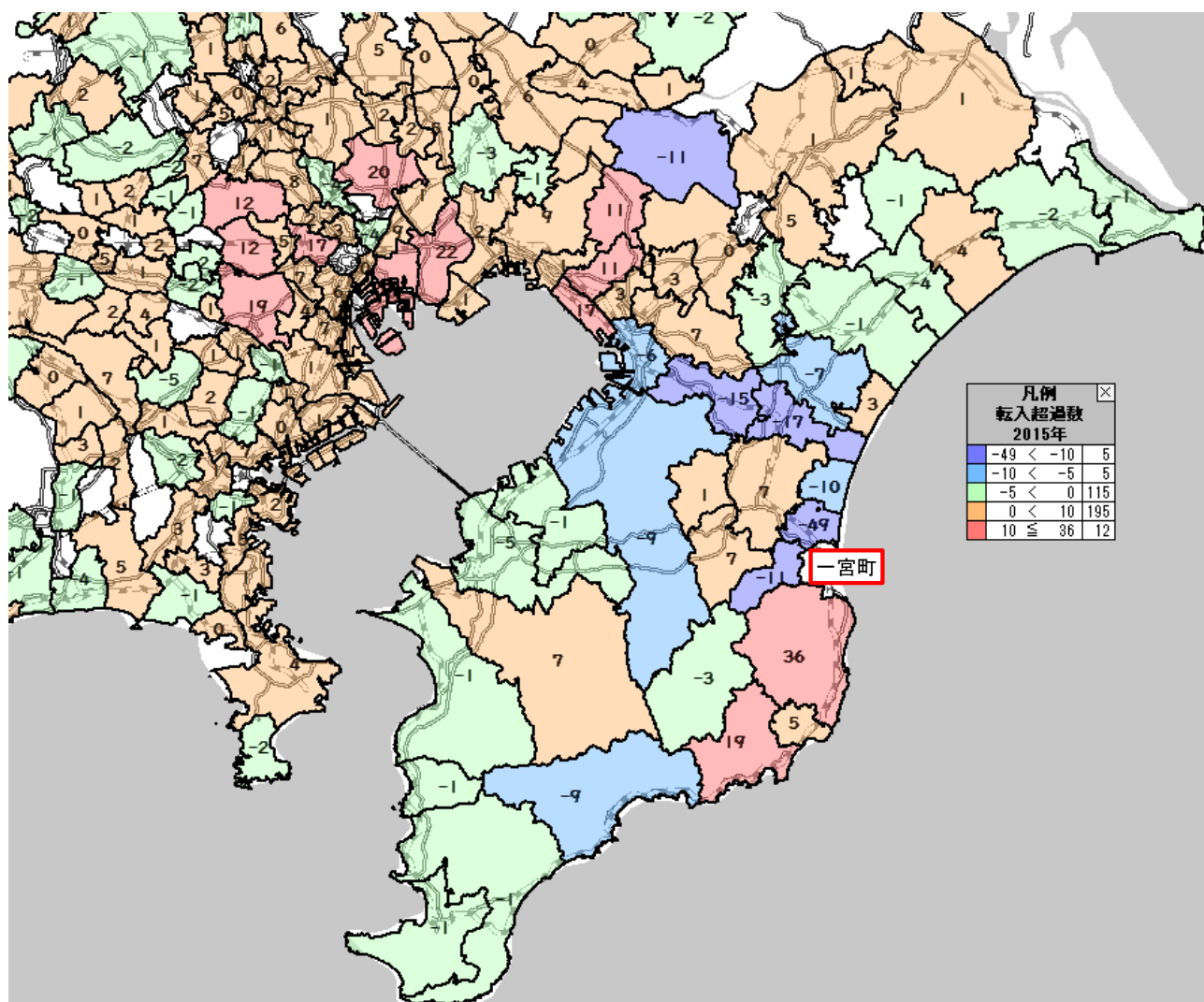
## (9) 転入元・転出先自治体

### ① 全年代の動き

転出超過は、「長生村(▲49人)」、「大網白里市(▲17人)」、「千葉市緑区(▲15人)」など近隣自治体への流出が目立っています。

一方、転入超過は、隣接市である「いすみ市(36人)」、「勝浦市(19人)」とともに、「東京都江戸川区(22人)」、「東京都江東区(20人)」、「東京都足立区(20人)」、「東京都世田谷区(19人)」など都市部からの転入も目立っています。

【東京圏の自治体からの転入超過数】



出所：平成27年国勢調査

## ②年齢別（25-44 歳）の動き

25 歳から 44 歳の年齢層の純移動（転入－転出）の動きをみると、「東京都江戸川区（+12 人）」や「東京都江東区（+10 人）」など都内の自治体からの純移動プラスが目立ちます。本町への移住者増加は、このように都内からの移動に下支えされているとみられます。

### 【年齢別転入元・転出先自治体(25-44 歳)】

■転入者数

順位	転入元市区町村	転入者数
1	茂原市	97
2	いすみ市	67
3	長生村	19
4	千葉市 美浜区	14
4	大網白里市	14
4	東京都 江戸川区	14
7	勝浦市	13
7	東京都 江東区	13
9	千葉市 中央区	12
9	市原市	12
9	睦沢町	12

■転出者数

順位	転出先市区町村	転出者数
1	茂原市	86
2	いすみ市	43
3	長生村	41
4	市原市	26
5	千葉市 緑区	25
6	大網白里市	14
7	睦沢町	13
8	千葉市 中央区	12
9	白子町	11
10	市川市	10

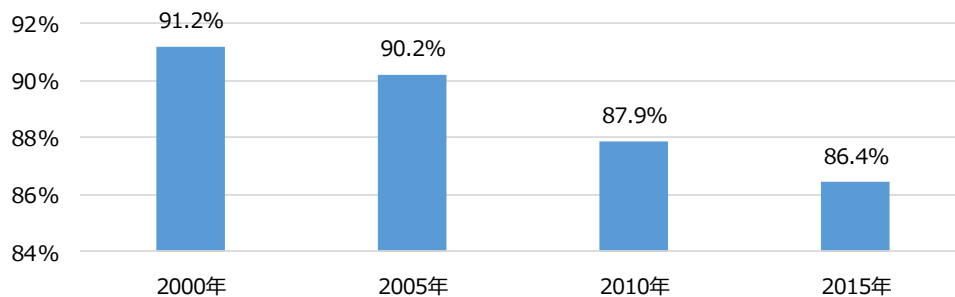
■純移動人口

順位	市区町村	純移動人口
1	いすみ市	24
2	東京都 江戸川区	12
3	千葉市 美浜区	11
3	茂原市	11
5	東京都 江東区	10
5	東京都 足立区	10
7	勝浦市	8
7	東京都 墨田区	8
9	東京都 新宿区	7
9	東京都 世田谷区	7
9	東京都 杉並区	7

出所：平成27年国勢調査

## (10) 昼間人口

昼間人口をみると、減少傾向が続いており、平成 27 年（2015 年）には 86.4%となっています。昼間人口比率の低下は、本町で従業・通学する就業者数・通学者数の減少を反映しています。



出所：国勢調査

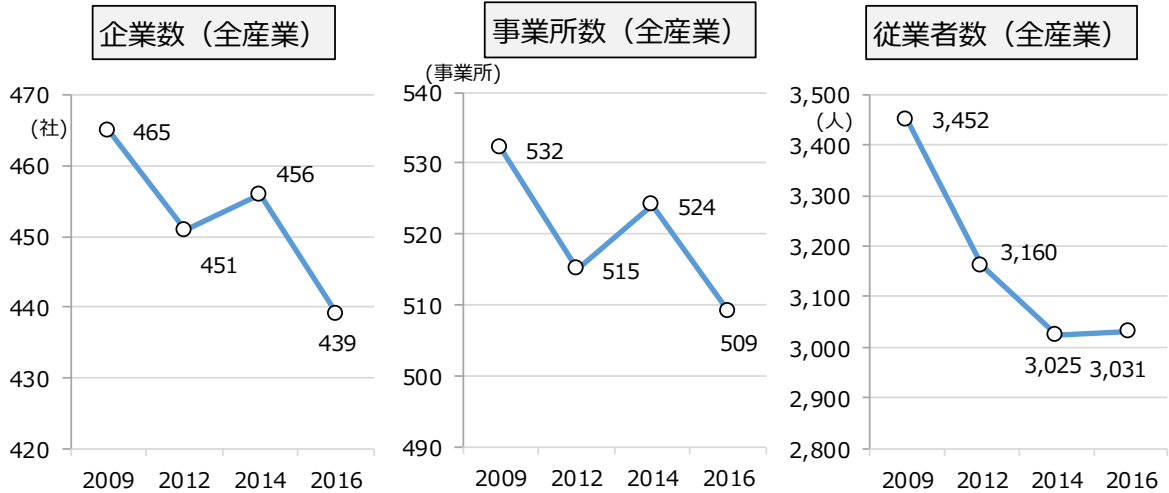
(単位：人)

	国勢調査					
	総人口	当地に常住する就業者・通学者数	当地で従業・通学する就業者・通学者数	うち 就業者数	昼間人口	昼夜間人口比率
2000年	11,648	6,402	5,374	4,604	10,620	91.2%
2005年	11,656	6,261	5,118	4,448	10,513	90.2%
2010年	12,034	6,092	4,632	4,104	10,574	87.9%
2015年	11,767	6,103	4,507	4,014	10,171	86.4%



# (11) 産業別就業者

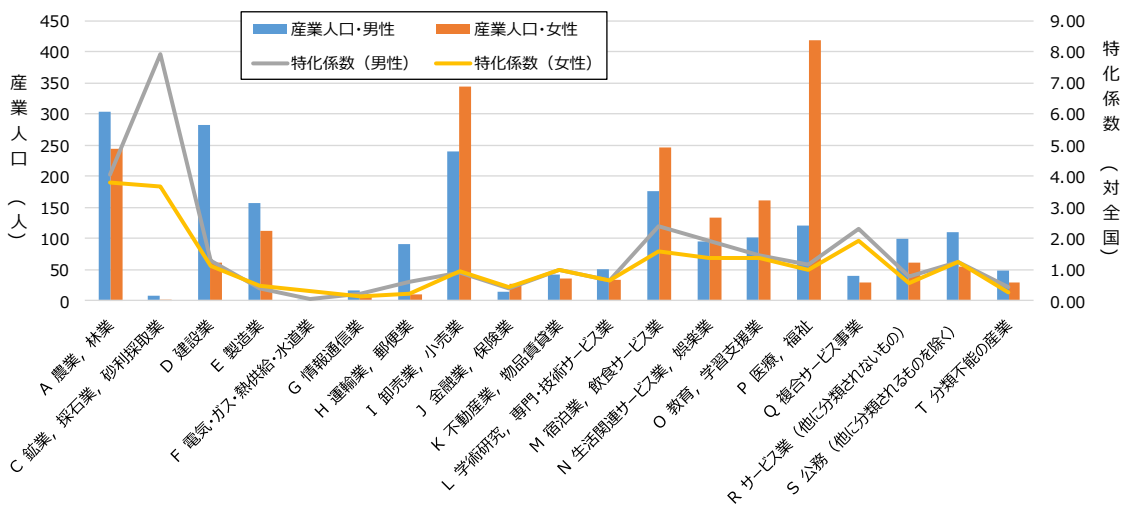
本町における企業数、事業所数は減少傾向となっています。一方、従業者数は減少傾向から横這いの動きとなっています。



出所：総務省「経済センサス」

本町における産業別の就業者数をみると、「卸売・小売業 (584 人、構成比 14.6%)」、「農業、林業 (547 人、同 13.6%)」、「医療、福祉 (539 人、同 13.4%)」などが多くなっており、本町において雇用の場を提供している産業となっています。

産業別特化係数<sup>2</sup>をみると、男性では「鉱業、採石業、砂利採取業 (7.91)」、「農業、林業 (4.03)」、「宿泊業、サービス業 (2.38)」、「複合サービス業 (2.32)」などが高く、女性では「農業、林業 (3.79)」、「鉱業、採石業、砂利採取業 (3.68)」、「複合サービス業 (1.95)」、「宿泊業、飲食サービス業 (1.57)」などが高く、就業面で全国に比べ相対的に特化した産業構造となっています。

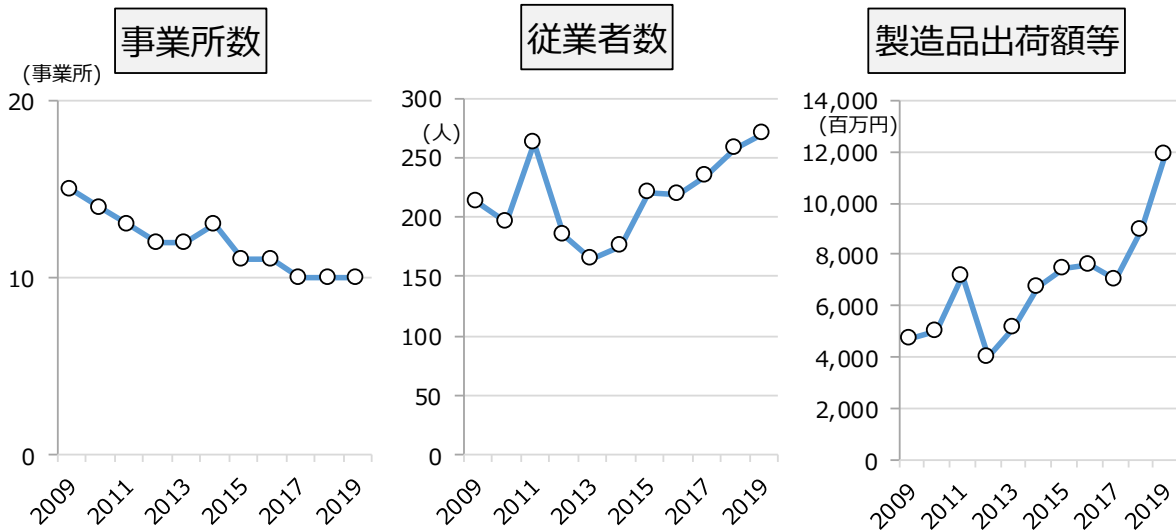


出所：総務省統計局「平成27年国勢調査 (従業地・通学地による人口・就業状態等集計)」

<sup>2</sup> A 産業の特化係数 = 一宮町における A 産業の就業者比率 / 全国における A 産業の就業者比率

## 【製造業】

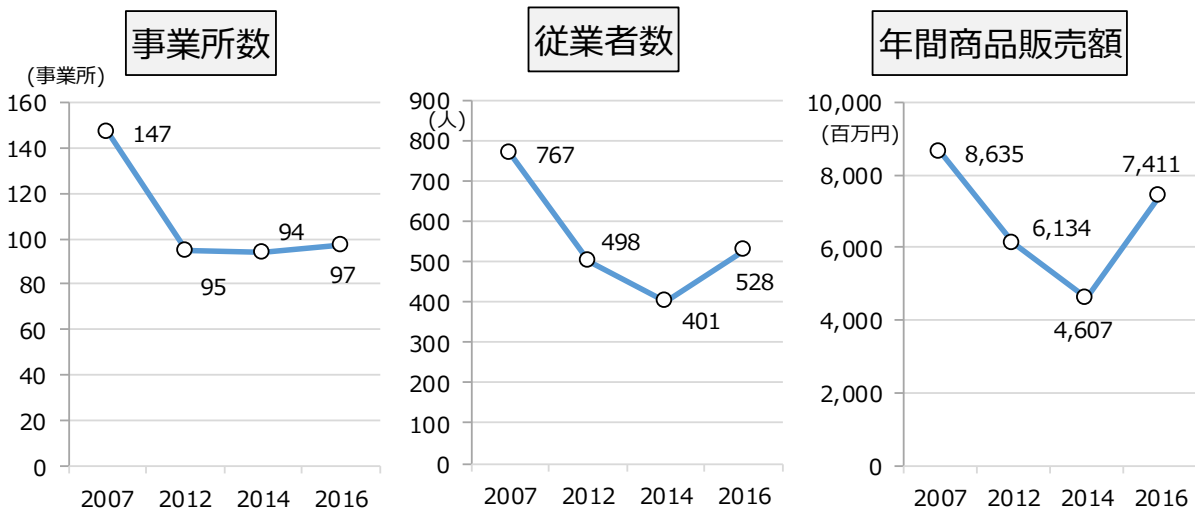
製造業の事業所数は減少傾向のなかで、従業者数、製造品出荷額等は平成 26 年（2013 年）以降、増加傾向となっています。



出所：経済産業省「工業統計」

## 【小売業】

小売業の事業所数は横這いとなっています。従業者数、年間商品販売額は平成 19 年（2007 年）以降、減少傾向を辿っていましたが、平成 28 年（2016 年）はともに増加に転じています。

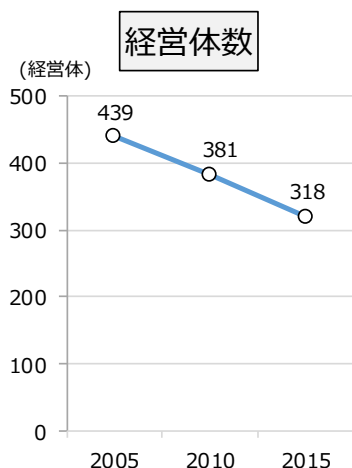


出所：経済産業省「商業統計」

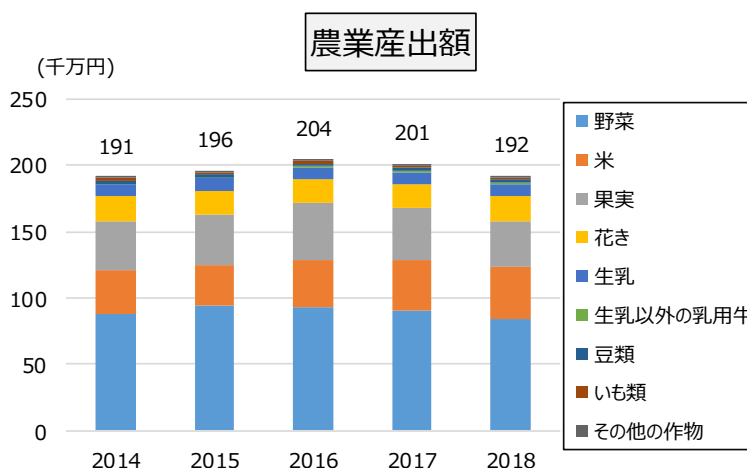
## 【農業】

本町の農業生産者の平均年齢は 67 歳、生産者の 63.55%が 65 歳以上となっており、担い手の高齢化が課題となっています。

また、農業経営体数は減少しており、農業産出額も平成 28 年（2016 年）をピークに減少傾向となっています。



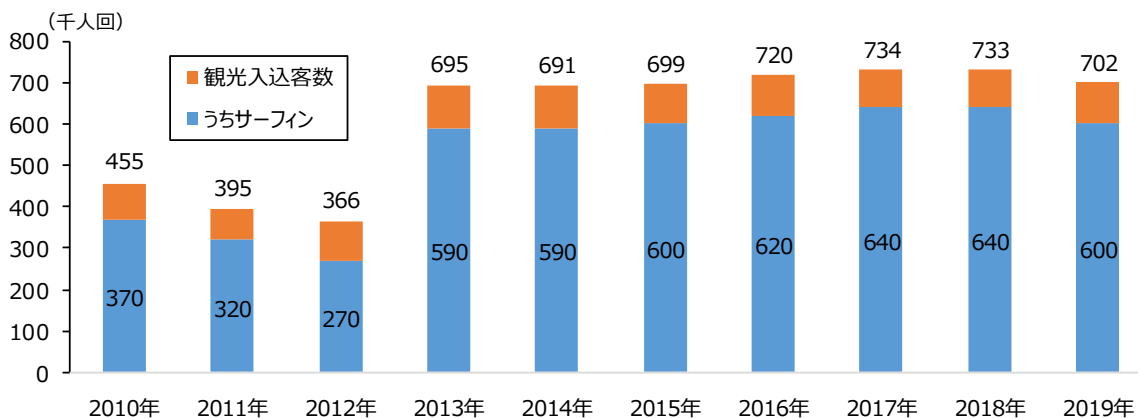
出所：農林水産省「農林業センサス」



出所：農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

## (12) 交流人口

本町の観光入込客数は、70.2 万人となっており、観光地点の入込客数は長生地域で最も多くなっています。観光入込客の中心である「一宮・東浪見・釣ヶ崎海岸」のサーフィン客は 60 万人となっており、観光入込客の 8 割以上を占めています。

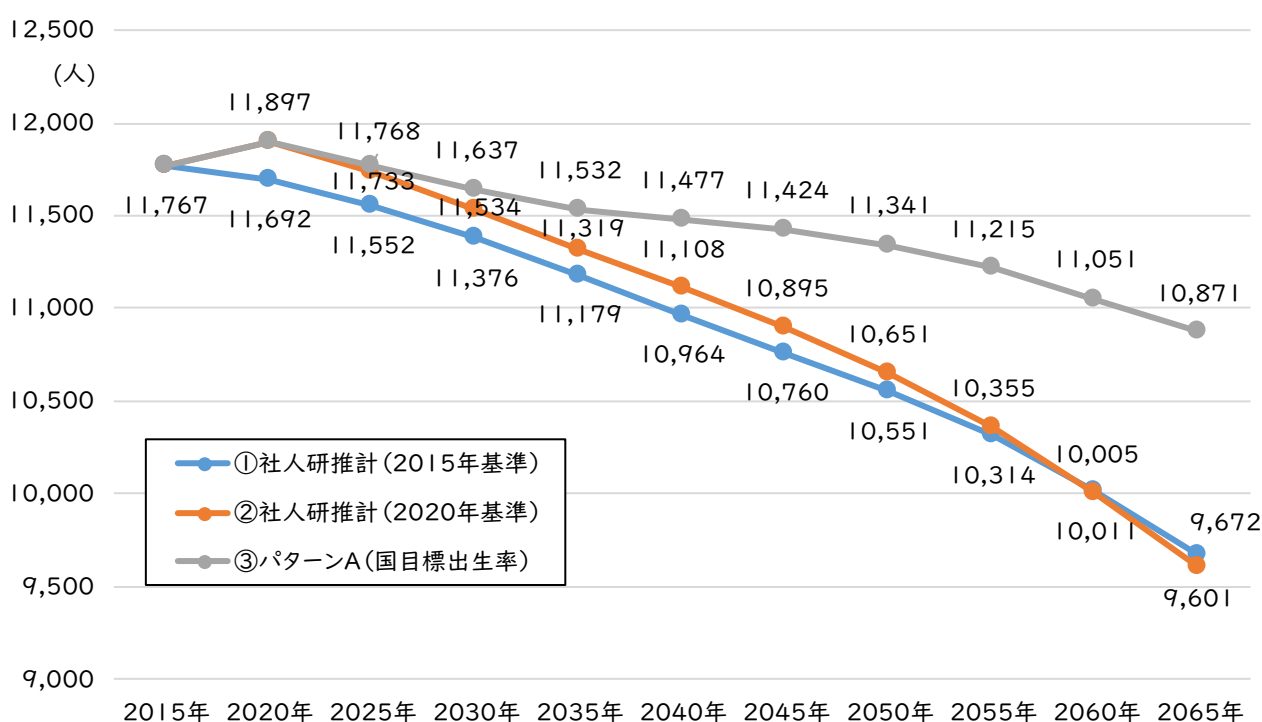


出所：千葉県「観光入込調査」

## 第2節 将来人口推計

自然減少の拡大などを背景に本町の人口は減少が継続する見通しとなっており、社人研推計では令和12年(2030年)には11,376人となり、令和47年(2065年)には9,672人と1万人を割り込む見通しとなっています。

なお、令和12年(2030年)の減少率(2015年比)は、▲3.3%となっており、県内54市町村で16番目、長生郡市(1市5町1村)では最も減少率が低くなっています。



出所:国提供の「人口動向分析・将来人口推計のためのワークシート」により推計

	基準人口	出生率	移動率
①	2015年国勢調査	社人研出生率 2030年:1.556 2040年:1.567	社人研移動率(直近2期通算) (転入超過のため、移動均衡より増加)
②	2020年国勢調査	社人研出生率 2030年:1.556 2040年:1.567	社人研移動率(直近2期通算) (転入超過のため、移動均衡より増加)
③	2020年国勢調査	2030年:1.8 2040年:2.1	社人研移動率(直近2期通算) (転入超過のため、移動均衡より増加)

## 第3節 人口減少に伴う課題

地域経済の源泉である人口の減少に伴って本町が直面する課題について、以下の通り分野ごとに整理しました。

分野	人口減少に伴う課題
経済	担税力の低下、労働力不足
農業	後継者不足、耕作放棄地の増加による有害鳥獣の被害拡大
都市基盤	公共交通、都市インフラの衰弱
住環境	空き家による防犯上の懸念、耕作放棄地の増加による防災・景観など多面的機能の喪失
消費生活	生活関連サービスの減少（買い物弱者の発生）、生活利便性の低下などによる負のスパイラル
子育て	核家族化の進行による家庭内の子育て負担増大
教育	学校規模適正化の必要性
文化	地域の文化や伝統行事の喪失懸念
高齢者福祉	世帯の小規模化による介護力の低下、高齢者単独世帯への対応増加
医療	人口減少による医療資源の不足
行財政	税収の減少、扶助費の増加（高齢化対応、子育て支援策の拡充）
地域コミュニティ	地域活動の担い手不足（防災や防犯など）

## 第2章 人口の将来展望

人口動態や将来人口推計などをふまえ、本町では本計画の目標年度である令和8年度(2026年度)における目標人口を「12,000人」に設定いたします。

【令和8年度(2026年度)の目標人口】

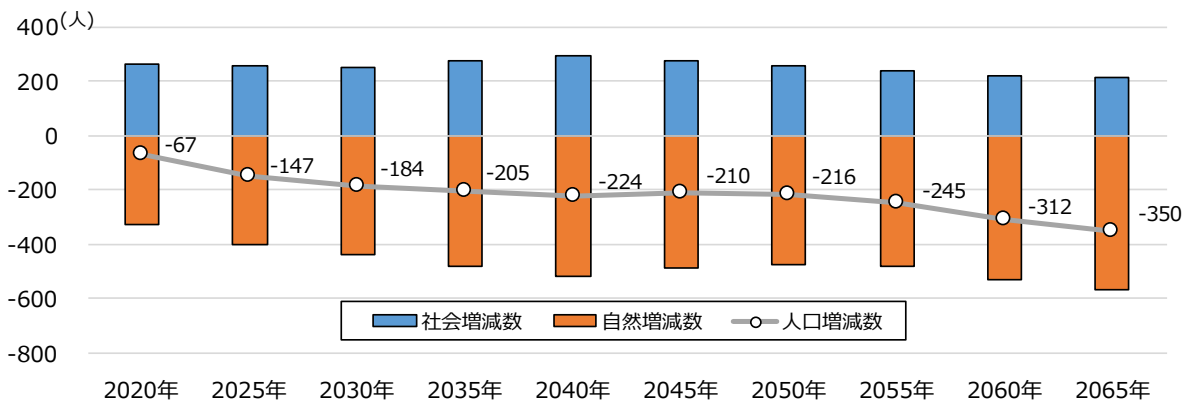
12,000人

### 《目標人口の達成に向けた方向性》

○人口推計の結果、令和8年度(2026年度)の人口は11,500~11,700人ですが、人口増加に向けた施策を実施することで上積みを図ります。

○人口の自然減少については我が国全体として少子高齢化が進むなか構造的な要因として避けられないため、出生率の向上や転入増加、転出抑制に向けた方向性を検討します。

【本町の人口の自然増減等の推移と将来推計】



出所：国提供の「人口動向分析・将来人口推計のためのワークシート」により推計（推計②における人口増減）